

インフルエンザワクチンの接種を受けられる方へ

■ ワクチンの効果と副反応

ワクチンの接種により、インフルエンザの発症を予防したり、発症した場合でも症状を軽くしたりする効果が期待されます。そのため、インフルエンザによる重症化や死亡を予防する効果が期待されます。

【主な副反応】

接種直後から数日中に、発疹、じんましん、湿疹、紅斑、多形紅斑、かゆみ、血管性浮腫などがあらわれることがあります。全身症状として、発熱、悪寒、頭痛、倦怠感、一過性の意識消失、めまい、リンパ節腫脹、嘔吐、嘔気、腹痛、下痢、食欲減退、関節痛、筋肉痛、咳嗽、動悸、筋力低下などがみられることがあります。

局所症状として、接種部位に発赤、腫脹、硬結、熱感、疼痛、しびれ感、小水疱などが認められることがあります。いずれも2～3日で消失します。

蜂巣炎（細菌による化膿性炎症）、顔面神経麻痺などの麻痺、末梢性ニューロパチー、失神・血管迷走神経反応、しびれ感、振戦、ぶどう膜炎があらわれることがあります。

【非常にまれな重大な副反応】

- ① ショック、アナフィラキシー（じんましん、呼吸困難、血管性浮腫など）
- ② 急性散在性脳脊髄炎（ADEM）（接種後数日～2週間以内の発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害など）
- ③ 脳炎・脳症、脊髄炎、視神経炎
- ④ ギラン・バレー症候群（両手足のしびれ、歩行障害など）
- ⑤ けいれん（熱性けいれんを含む）
- ⑥ 肝機能障害、黄疸
- ⑦ 喘息発作
- ⑧ 免疫性血小板減少症、血小板減少
- ⑨ 血管炎（IgA血管炎、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、白血球破砕性血管炎など）
- ⑩ 間質性肺炎
- ⑪ 皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson症候群）、急性汎発性発疹性膿疱症
- ⑫ ネフローゼ症候群

副反応による健康被害が生じた場合の救済については、健康被害を受けた方またはご家族が、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づき手続きを行うことになります。

■ 予防接種を受けることができない方

- ① 明らかな発熱（37.5℃以上）がある方
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
- ③ 過去にインフルエンザワクチンに含まれる成分でアナフィラキシーを起こしたことがある方
※ 他の医薬品の投与でアナフィラキシーを起こしたことがある方は、接種前に医師にその旨を伝え、判断を仰いでください。
- ④ その他、医師が予防接種を受けることが不相当と判断した方

■ 接種前に医師にご相談ください

- ① 発育が遅く、医師や保健師の指導を継続して受けている方
- ② かぜなどのひきはじめと思われる方
- ③ 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気などの基礎疾患がある方
- ④ 前回の予防接種後2日以内に、発熱、発疹、じんましんなど、アレルギーを疑う症状がみられた方
- ⑤ これまでにけいれんを起こしたことがある方
- ⑥ 過去に免疫不全と診断されたことがある方、または近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ⑦ 間質性肺炎、気管支喘息などの呼吸器系疾患がある方
- ⑧ 薬の投与または食事（鶏卵、鶏肉など）により、発疹など体に異常があらわれたことがある方
- ⑨ 妊娠の可能性がある方

■ 予防接種を受けた後の注意

- ① 接種後30分間は院内にとどまるなどして様子を見て、アレルギー反応などがあった場合に、すぐに医師に連絡できるようにしてください。
- ② 接種当日の入浴は差し支えありません。ただし、注射した部分をこすらないでください。
- ③ 接種当日は接種部位を清潔に保ち、通常どおりお過ごしください。ただし、激しい運動や大量の飲酒は避けてください。
- ④ 高熱やけいれんなどの異常な症状があらわれた場合は、速やかに医師の診察を受けてください。